



大井文楽保存会



大井恵那峡とんとん節保存会



岡瀬沢浅間七福万歳保存会



明智町歌舞伎保存会



毛呂窪民芸保存会



名士によるお目見得だんまり



山岡歌舞伎保存会



大井栄舞保存会



中野方めれた囃子保存会



中野音頭保存会



白山比咩神社獅子舞保存会

市伝統芸能大会

26回目を迎えた市伝統芸能大会が2月21日、恵那文化センターで開かれました。今回は12の団体が地域に伝わる芸能などを披露。恒例の市内名士によるお目見得だんまりも行われました。



東野歌舞伎保存会



▲通常の歌舞伎公演とは異なり役者の演技は無く、太夫と三味線方が横一列になって練習の成果を披露した＝市伝統芸能大会

インタビュー

まつもとだんじょ
歌舞伎振付師 松本団女さん

松本団女として市内外九つの歌舞伎保存会で振り付けを指導。振付師に専念する以前は豊澤みゆきの名で義太夫三味線方(太棹)として、杵屋勘輪咲の名で下座音楽(細棹)として舞台を担当。これらの経験を生かして、平成26年から二代目竹本美善さんと共に恵南歌舞伎音楽教室で後進の指導育成に当たる。

現在の教室のメンバーは四つの各歌舞伎保存会に所属する有志13人。3人が役者の心情などを語る太夫に、三味線のうち4人が太夫の語りに合わせて演奏する太棹に、6人が通常は舞台上下手の黒御簾の中で効果音楽を演奏する下座(細棹)の練習に励んでいます。伝統芸能大会での初披露を終え、指導に当たる松本団女さんに伺いました。

――教室立ち上げの経緯

私の父、松本団升が山岡を拠点に岐阜県、愛知県、長野県などで歌舞伎の振り付けを始めた当初は、山岡に初代竹本美善太夫、明智に竹本二葉太夫のお二人が居て、それぞれが三味線を弾きながら語る、いわゆる弾き語りでした。



恵南歌舞伎音楽教室

継ぐ人を育てる

各歌舞伎保存会では、地域の伝統芸能である地歌舞伎の保存伝承活動を続けていますが、役者の心情などを語る太夫や三味線などは他地域の人材に依存してきました。歌舞伎にとつて役者と並んで重要な太夫、三味線ができる人材を育成するため、平成26年4月に活動を開始した恵南歌舞伎音楽教室。山岡、明智、串原、上天作の各保存会のメンバー有志で構成され、今回の市伝統芸能大会が稽古の成果の初披露となりました。

この周辺の歌舞伎はこのお二人でやっていきましたが、同年代であり、高齢のため引退のころに下呂の竹本美功太夫と豊澤順八さんが跡を継がれ現在に至ります。

しかし、その太夫さんも高齢になられ、後継者の育成が必要になってきました。さらに山岡の二代目美善太夫が4年前に病気で倒れ、舞台復帰が難しいと思われました。幸い今回の伝統芸能大会に出演できるほど回復しましたが、一度の公演で何事も務めるのは難しい状況です。

太夫さんだけでなく、下座音楽と言いまして細三味線ですが、私の母杵屋志げ子と私、そして私の娘の3人がこの辺りの下座を全部担当しています。

母も88歳になりましたので、皆さんが元気に活躍しているうちに地元で後継者を育てなくてはならないと、保存会の堀新三会長と相談し、音楽教室を始めました。

――後継者育成にはどのくらいの期間が必要か

調子3年と申しまして、まずきちんと自分で調子が合わせられて、それから譜が分かるようになるまでに3年は必要です。まだ始めて2年なので、自分で調子が合わせられるのかと言えはそうではありません。やはり石の上にも3年、3年頑張れば何とかお客さんの前に立てるようになるかと思っています。それに芸能の世界には切りがない

今やっている方は全員やる気のある方ばかりです。

――伝統芸能ではどの団体も後継者の問題を抱えていますか

歌舞伎に関してはやはり太夫さん、三味線弾きさんたちをつくってあげば続けていけると思います。役者は毎年募集し、子どもたちも参加してくれるので、担い手は多分居ると思います。やはり裏方の育成が大事です。

――これからの活動

今稽古に集まっている方たちは、その地域で主要な役者の方ばかりですので難しい面もありますが、地元の公演は、語りと三味線がその地域の方でできるようにできれば一番いいと思います。

出演者に聞きました

三味線(太棹)で出演
三宅知咲季さん
(明智町・23歳)



歌舞伎は小学6年生の初舞台以来ずっと出演してきました。三味線は4年前から細棹を習っていますが、義太夫(太棹)は初めて。細棹と比べ太棹の三味線は大きくて重く、音を出すのが難しいです。歌舞伎が大好きなので、役者、日本舞踊、三味線などこれからも幅広く歌舞伎に関わっていきたいです。



せりふで出演
堀珠紀さん
(串原・39歳)

歌舞伎は舞台上に立ったときの緊張感や役に成り切るときが楽しいです。今回はせりふで出ましたが、教室では細棹を練習しています。まだ弾くのがやっとなので、役者に合わせるの難しいですが、稽古を続けていくので、いつか地元の公演に細棹でデビューできればいいなと思います。